頭書
大全

# 世界國盡

南亞米利加
大洋洲卷之五六

附錄

K110,28
2
3

東洋文庫

南亞米利加洲の事

南亞米利加洲の人數一万千七百萬土人の子孫多ハ土人と歐羅巴との間に生まれ者もあり但し支配をする者ハ歐羅巴人の種あり山林深くして草木

東洋文庫

國立公文書館

西之末洲

南亞米利加洲

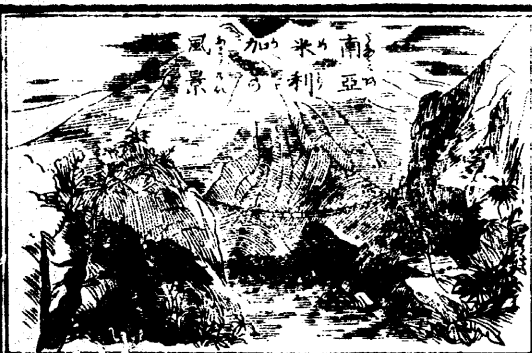
「巴西」馬乃地狹二千余里「太平海」此の多羅海左右ハ多くハ山の孤和の通れ候

安藤源

東洋文庫

東洋文化研究所
41096
図書

41096

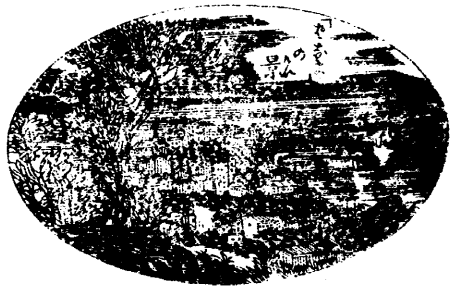



歲を阿非利加等の如き不毛の地あり

南の方北岬まで
凡一千九百余
里陸に不毛の地
多く米利加に
洲を形成す

○古論備屋ハ國を八洲ハ分ち巴奈馬も其中の一州なり東の世界ハ米洲西の世界ハ巴奈馬として地理の模様相似たる地峽なり但し巴奈馬の地峽ハ僅ハ二十里なるも山續ハ

北の方加奈
共和政府の「古論
備屋南北の「赤
道」志を直ハ
北方山阪高



ていまく堀割も出来なく蒸氣車の道ゆるのミ

高山は北の方を遮り、夏も涼しく、冬は暖かなり、四時とも絶えず春の野の如く、稚苗の生育すること、



○赤道國とハ赤道の下に當るゆへ、斯く名つけたるなり。部根重良も峻嶮にて、物を生ぜぬ地なれハ、地震多きゆへ、故に家の作皆低し。其都城かちかもと、千八百十二年の大地震に殘らず

農の時に、遠來の人、本の木部根重良國の風俗、政事、北理山の樣子、都の

つぶさたる国とす
都て南亞米利加
地震の甚だしき
地なり

國土異なること
乃ち五井果、南
北九千里、東西二百
六十里土地の廣袤
凡二千餘萬「佛」

○武良尻ハもと葡
萄牙の領分なりし
近来獨立し十八
百二十二年に至て
帝國と称を南亞
米利加の内にて米
一の大國なり國政
寛くして教育の法
行届き日耳曼及び
瑞西より家を移し

「英」の三箇國を有つ
乃一部、西は世界
の物産を東の冨
饒なるを以て人は
助成を被て不羈獨

で来るー者も既に六萬人ばかり都の名をぶををやねいろといふ大都會あり

立の「武良尻」人口七百七十萬「亜米利加洲」の南方に比類なき一帝国花ひらき栄れば人口

武良尻の産物は砂糖こつひさ」材木等の外に金銀も多く殊にだいやもんと」は此國の名産なり領分の土地は廣けれども人の數少く内地の方はいまだ開らけずして珍禽異獸多しといふ

深山の巨木長茂る禽獣人口迷ふ程の深山の巨木長茂る禽獣人口迷ふ程の深山の巨木長茂る禽獣人口迷ふ程の

保里備屋巴羅貝等の諸國も皆合衆政府なれども土地

田地風俗を異にし
暮らしを稼ぎ業
人を勝れ東南の
地は「保里備屋巴羅
貝」「宇柳貝」「良富羅



すべて開らきて固よ
り蒸氣車の路もあ
く徒歩にて往来を
るにも山阪の間に
難處多し荷物を運
送するには大抵人
馬のみを用ひ或は
谷川に繩の橋を架
て往来をる處も
木曾の桟橋の如し

多越えて「邑多吳
仁屋」地の風俗人
情元大略同し共和
政なれども「瀧戸」
「麻瀧蘭」「戎濱」

風流人ハ悦ぶ事さ
おもども日用の不
便利ハ夥し

山林の深さハ武良

「大地球」ハ亞米利加洲
の義望峰、雪平廻
北ハ「池鯉の國安天
洲山」ハ禁ぶ南北
八百三千里東西僅

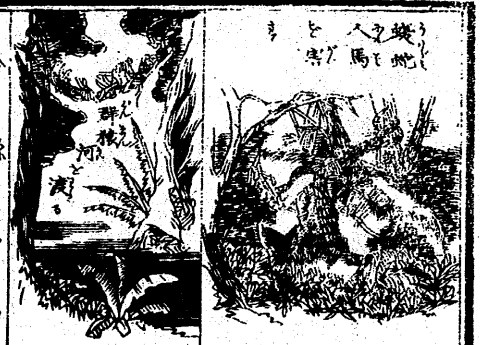


尻のもからを南亞
米利加洲何ども同
様ナリ深山の奥ハ
至ればハ草木森々と
して樵者の跡も見
へず獅子の一聲百
獸戦慄群猿月ハ呼
べバ旅客も心を悼
ましむ開闢の始よ
り人工を経

一百里天氣時変の
ずれ世界の
沈顔多くして赤道
以南の地なれハ春
夏秋冬異なりて我

ざるの地なれバ其の景色如何かもを
のをごし山静かして太古の如しとハ此邊の有様を味ひたるものならん又暖帶の地ハ大なる蝮蛇ありて折々人を害をとゝ山恐るべきことあり

六月ハ彼地を彼地
笑暑ハ我乃を寒
暑ハ順ハ成れとも
四時正しく行るゝ
百物成て豊なる




○火の國ハ南の端ハ離れたる嶋なり此嶋ハ火山多き

の人口二百萬諸海
客樣ハ共和政民ハ
教育行ふ法ハ
建る豊田所ハ
古ハ人数三萬人係

やく斯く名けしと
岬の名を「まんぞ」
不ふるんと」いふ其
地理東の世界の書
望峰に似たる此邊
の土人は風俗甚だ
陋しく人の肉を喰
ふものゆゑ鯨鱷な
どの時には犬にて
も猫にても喰なぎ

るものゆゑ老嫗の肉を賞翫そ
るとぞ

「まんぞ」
の景

すむ文明はまの
冨強と伴て古の行
末の幸福を期し
まつるなり
安天須山はつるか



きたりて逆人の年
柳は人口二百四十萬
土地は生る産物
八千穀金銀綿砂糖
塩硝等の農

○地理も西班牙の領分なりしが千八百十七年以来獨立して共和政府となる

近年ハ次第に國政を改革して文武ともに盛なり四五年以前西班牙より軍艦を差向けしと度々なりとも遂に

貴地名は平柳國の幾那塩を製し幾那塩を天下金額の解熱剤に悩み病人を救



が克たる其都をさんちいごといふ海岸より四十里なり

その裏かわり此間かハ蒸氣車の路を作て運送の便利を違せり

○平柳ハ千八百二十四年「いやくちよ」の一戦にて西班牙

那塩を以苦を忘れ

ん仮令病苦忘

地理乃豊物を

の手を離れ獨立の共和政府となれり首府の名を「ぼまと」いふ海岸に近し東の方に離れて「くをこ」といへる都會あり此國も近來は次第に繁昌して南亞米利加の内にては上國の名あり

「ぺルー」國の都會「くをこ」の景

平柳の海岸に「ちんちや」るおをいへる小嶋あり此邊は夥しく海鳥の集

「亜細亞」「阿弗利加」「歐羅巴」「亞米利加」「海」

北南序式遍し

大海を其間に

大地を豊に叫び

る更に朝に群を飛べば其影天を覆ひ暮に嶋に帰るに其聲数里に聞ふ数千年来嶋に積りし鳥の糞堆くして山の如し三十年以来欧羅巴人の思付にて此糞を取て畑に蒔とやしに用て功能

近来は追々世に弘まりて既に日本へも持渡りし

ひろく天を覆し知
んと世に在所を旧
跡成しを尋古を
尋ね新しく費明
しなる島に成来て

大洋洲

太平海に嶋に数
百千に数知る亜
細亞洲の南すそ

大洋洲の事

大洋洲とハ太平海の嶋々を集りたる名目あり土地の廣さ凡集ハ九千四百五十萬坪人口ハ二千五百萬余赤道の近傍ハ諸島ハ天然の産物甚多し胡椒ぶむ

海岸ちく輝ちを須磨多羅「保留根」尾「爪哇」漢禮部須「新銀」名「西洋」決王支配の

樟脳象牙砂糖「こつ」ひい黄金銅錫石炭も澤山あり爪哇・須磨多羅・保留根尾・瀬禮部須・新銀名・須拝洲等ハ和蘭の領分にて本國政府の臺所とも云ふべき地あり呂宋の近傍ハ西班牙よ

地赤道ちかく暖帯に生じて條ちを産物成遠くちかへ本國の衣食ち供へ弟氏是一富国

こゝを領し其都を「ぱおらとへふ」煩草の名所あり唐人ハ巻煙草のことを呂宋煙と唱るかゞのことあり都て此邊の嶋々ハ住居をる人ハ島人の種類かて風俗甚だ陋しく歐羅巴人の支配を受てこゝハ從へて或ハ山の奥ハ籠て獨立せるものもあり

利用の經濟を第一とし波濤に於ても地理の學を船海の術を研究して文明の勇を知るの功を

南方もろゝの一世界なる此地を見せ和蘭人の初めて新和蘭と名付しより今ハ其

○澳大利亞の本名ハ「ぶりたるぬ」
やとゆふ「ぬふ」また
るくハ南とゆふこ
とふて亞細亞洲の
南かわるゆゑ斯く
名けしあり千六百
五年即ち我慶長十
年の頃和蘭の人始
てこゝに見出し新

名を呼なすより英
吉利領の澳大利亞
東西の里南北の廣
さ三千八百里
人口一百四十萬廣

和蘭と名けたるさ
きどり和蘭の本國
より手を入きてそ
の領分とおせしか
もいらぬ千七百六
十九年即ち我明和
六年英吉利の航海
者かぴたんこっく
る者世界中を航海
して此地に至や

北国地の景樣をき
くに人は稀なる
物を生ずる花
多く新費明は金
の山天洲の類

や其模様を詳索せて其後英吉利より罪人を流し次第に人の種も増て遂に英吉利の領分となり其土地の廣大なること歐羅巴洲を六に分て其五分に當り故に近来ハとをを嘲と唱へ

此さ「ぽーぷ」「ぽーぷ」の「ぽーぷ」年に移る

英金八幾千萬の

限り無き「ぽーぷ」是

「ぽーぷ」八「ぽーぷ」港に「女」



もして南海の一大洲といふものとは

澳大利亞の土地の割合ハ人の數

「ぽーぷ」「ぽーぷ」論志「ぽーぷ」の市

「ぽーぷ」易し日に賑ふ

衣食住みな海

の新世界榮る時を

近くして南の金

少し一百四十萬人の内土人ハ僅か五萬人其餘ハ皆歐羅巴人の種子南東の海岸ハ土地柄よくして繁昌せり志戸仁の港ハ東海岸か南の方か女曾保論と云ふ都會ハ第一の都お

「多壽めの屋東」
「ものもの紀伊蘭土皆」
「英吉利ハ支配受」
「け人口各十余萬」
「天氣時変し中和」

殊ことの近傍ハ金山ありゆへ益繁昌をる

○新地伊蘭土も英

「以潔新地伊蘭土」
「英吉利」ハ義し當
「て本國と ひとし」
「る是の職書和の時」
「刑例よ「英」の夜半

吉利の領分なる土地の模様「ほふきたらるや」ふ同じく土人ハ皆体ふかるものをきる風俗あり

この島と英吉利と

は地の畫ふるるを
北彼地平的
「英吉利」の領
多日の沒して時
「新地伊蒙

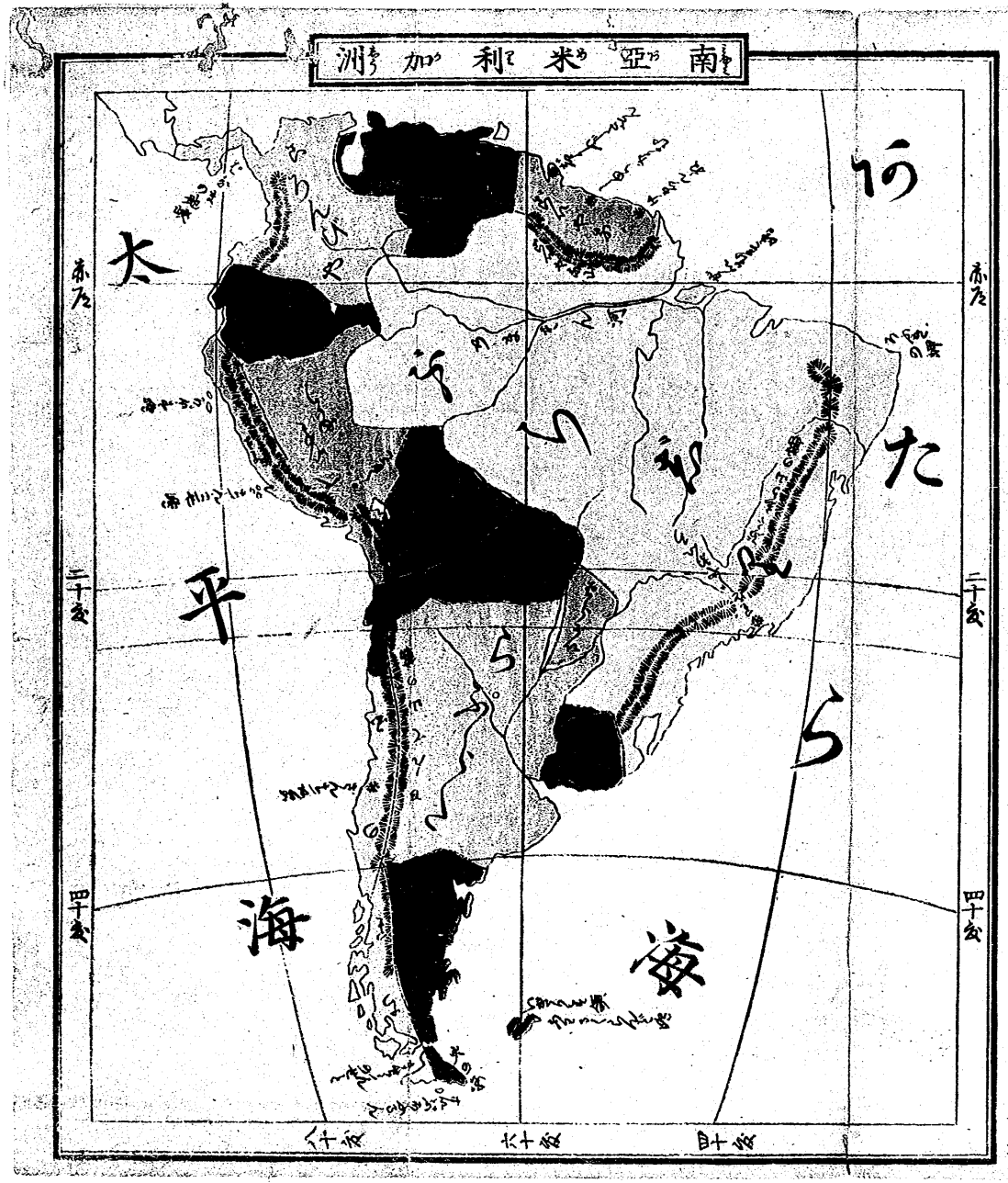
昼夜の異ある所以ハ地球の圓くして廻る理合を考へて合点を

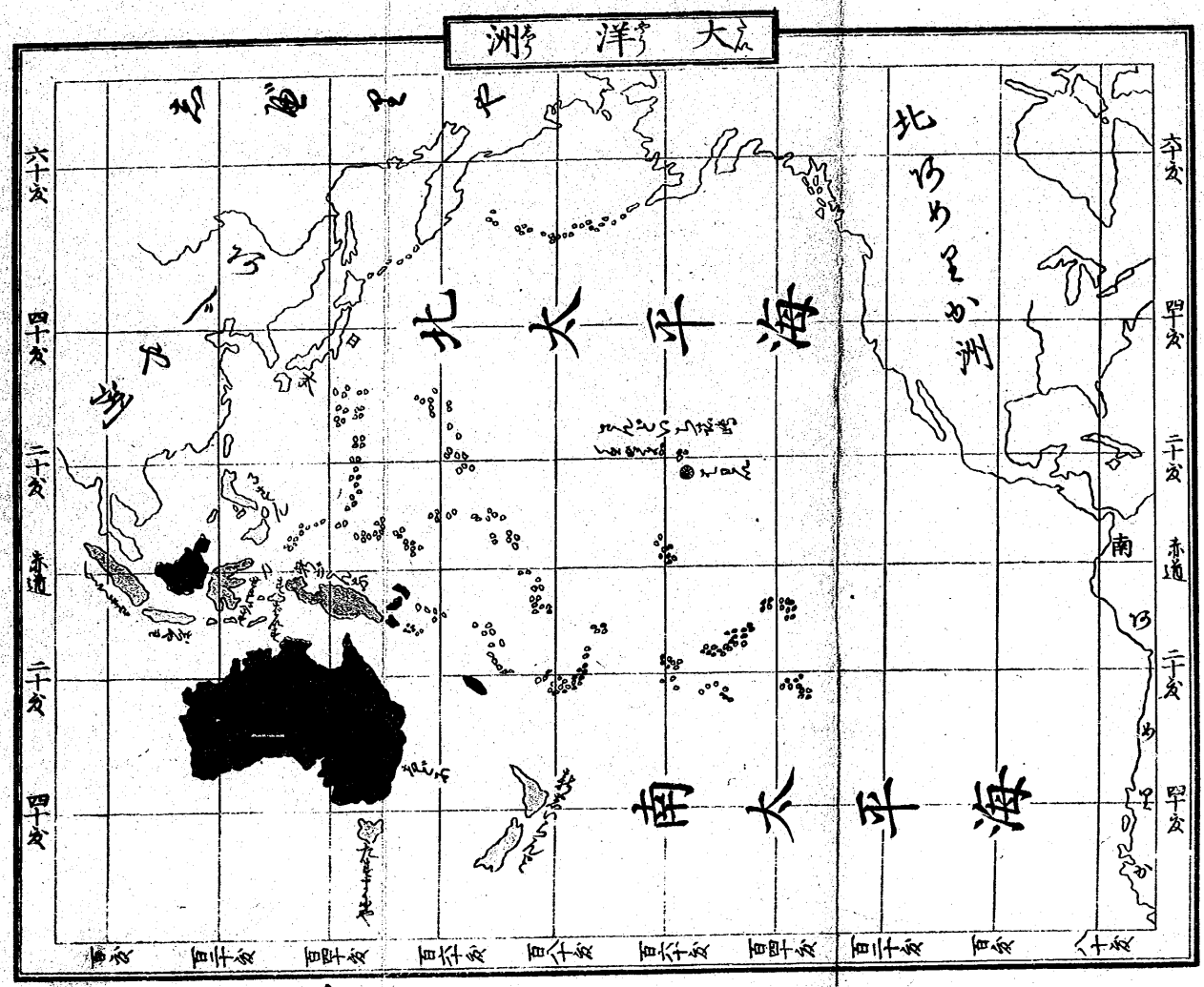
「土」北東數千の峰
通越赤道
越て北の方「山」
地の峰ハ「ロ」
人地を挟て獨立

○山土逸地ハ千七百七十八年「かぴたんこっく」の見出せし島にて同人ハ此嶋人ハ殺さまたる人の住居する島の数ハ八つ王風島の隣にある「もるん」ハ一ぢん大ひなる島にて火山多し産物ハ砂糖小麥綿烟草あど澤山あり

「亞」の字の船ハ人ハ此の商賣ハ地ハ茅ハ賑ひ

世界國盡終


南亞米利加洲
太平洋
赤道
二十度
四十度


大洋洲
北米洲
南米洲
北太平海
南太平海
六十度
四十度
二十度
赤道
二十度
四十度
卒度
四十度
二十度
赤道
二十度
四十度
百度
百十度
百二十度
百三十度
百四十度
百五十度
百六十度
百七十度
百八十度
百九十度

## 地理學の總論

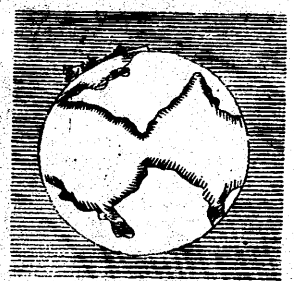
地理學ハ西洋の語ふて「ぢようがらひい」といふ「ぢよう」とハ地の義ありて「がらひい」とハ書といふ義あり故ふ地理學ハ地球上のことを書記し地球の外面を包む空氣の有樣までも說き明らかもる學問なり

地理學を三箇条ふ分ち第一箇条を「ぢをとろの

ミかる・ぢようがらひゝ」といふ天文の地學とゝふ義あり此箇条ニ於てハ地球を一個の遊星と見做し他の遊星と共ニ大陽の周圍を廻て四時寒暑の變化を起すなどのことを論ぜ第二箇条を「ひ」かる・ぢようがらひゝ」といふ自然の地學とゝふ義あり此箇条ニ於てハ海陸山川の區別草木禽獸の異同物産時候風雨雪霜の模様等を論ぜ第三箇条を「ぽ」ちかる・ぢようがらひゝ」といふ人間の地學とゝふ義あり此箇条ニ於てハ人種言語の品類風俗政体の異同文學技藝の巧拙文明開化の前後等を論ぜ

## 天文の地學

此世界も一個の遊星ニあり遊星とハ圓き物ニて空中ニ浮び日輪の周圍を廻て日の温氣と光とを受る星ニて此日輪ニ附屬の遊星數多ありとも大ひなるものハ唯八個のみ即ち地球も其内の一ニて地球の圓き證據ハ

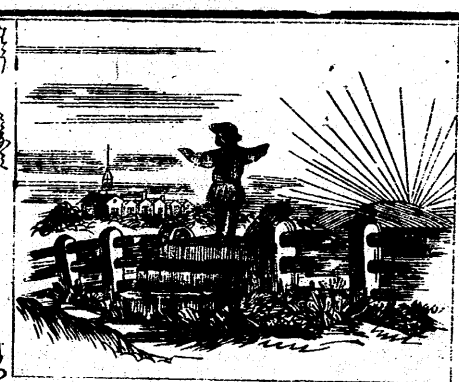


船ハ乘て大洋より陸を眺るハ始ハ山の頂のみを見付け次第ハ陸へ近づくハ從ひ麓の低き處も見るべし又地球の影の月ハ映ぜるときハ月食を起をその影かならず圓し影圓きハ其物も圓きこと知るべし

地球の周圍を一萬三百五十五里余ハ南北を軸ハして西より東へ轉び十二時の間ハ一廻を終ることを一昼夜とを即ち地球の自轉ある斯く自から轉おゞら三百六十五日五分五厘の間ハ日輪の周圍を一廻して本の處ハ歸ることを一年とを即ち地球の公轉ハ斯く日輪の周圍を轉廻る間ハ或ハこゝをハ近づき或ハこゝをハ遠ざかり且其光を眞直ハ受ると斜ハ受るとハ由て寒暑一樣ならず四季の變化こゝをゞためハ生ず但し赤道を界ハして四時相反し日本ハ

の如き赤道以北の國の夏ハ「ふまたらをや」等の如き赤道以南の國の冬ハ本文南亞米利加の篇ハ池鯉の國の冬ハ我夏ありと記したるも

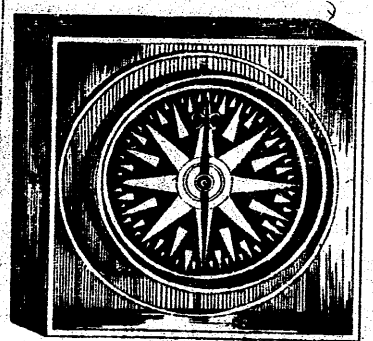
此國ハ赤道の南ニ在るゆゑ夏冬相反するあり



四方ハ東西南北ニ至上の繪ニ一人の子供両手をひろげ右の手ニて日の出る方を指をこの方東ニあり左の手ハ日の入る方を指をこの方西ニ面の向ふ方ハ北ニて背の方ハ南ニあり

この四の方角を羅針盤の本点と名く羅針盤ハ航海ニ欠くべからざる道具ニて唯

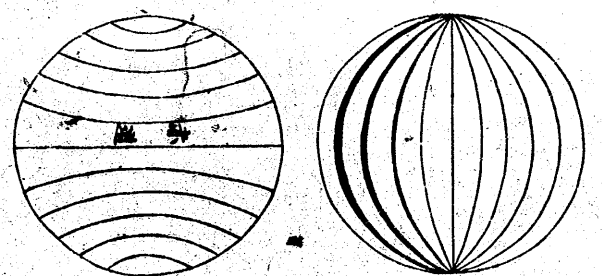
## 羅針盤の圖



四方のミならず東西南北の間を分ち又其間を小分して細ニこれを盤面ニ記しその方角ニ從て船の道筋を定るものあり

地球の面へ縦横ニ線を引き南北ニ通る線を子午線と名け東西ニ通る線を平行線といふ地球の狀圓きゆゑ斯く縦横ニ引通したる線の狀も

子午線　平行線

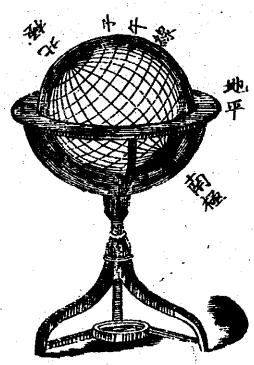


圓くして輪の如しこの圓き輪を三百六十に分てこれを一度と名け東西に刻みたるを經度といひ南北に刻みたるを緯度といふ平行線を以て南北の緯度を計るには眞中の赤道を本にして勘定を始む譬へば地理の圖書中に北緯三十五度といへば赤道より



北の方三十五度に當るといふことなり日本又は亞米利加の「かとるにや」などの地にも南緯の方もこれに同じ子午線は何れの地より始るも勝手次第なれども大抵地理書には英吉利の天文臺ぐりんいっちを以て本に立てを故に東經百四十度といへば英吉利の天

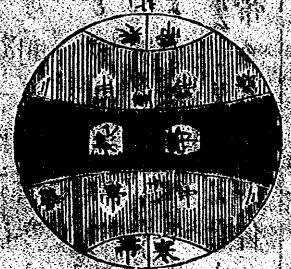
地球儀に經度緯度を刻みたる圖



文臺より東の方百四十度に當るといふことにて丁度日本國の處に新ぎいらんど」ハ東經百七十一度南緯四十七度三十分に當るを故に本篇に「新ぎいらんど」の人と英吉利の人とハ足のうゝを向合せにして昼夜相反するのことを記せり

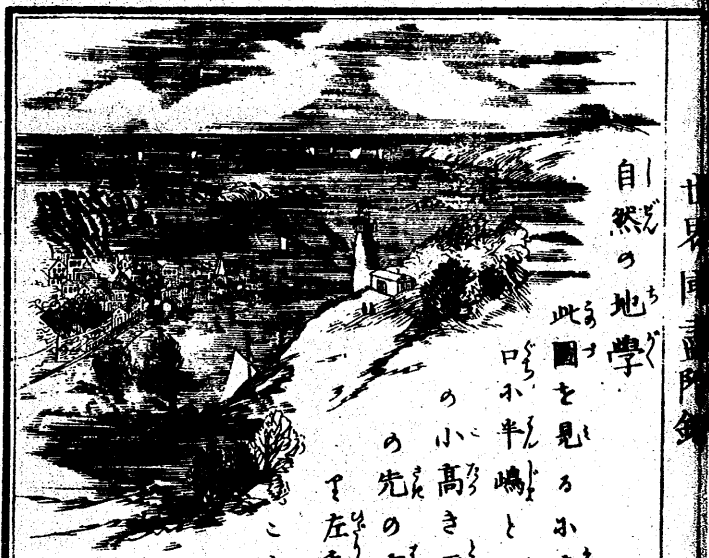
地球の周圍ハ英の里法にて二萬五千里にして日本の里數にすれバ一萬三百五十里余あり故にこれを三百六十に割たる一度ハ二十八里七合六勺四分余に當る但しこれを赤道の處にて測るとしるのみにて南北の方に近きにハ次第に短くあり其極に至るとハ何程なるか理なし

赤道より北と南へ英計三度半づゝの處に線を引きこれを三線と名付る間ハ時候熱故に熱帶と名付る北と南の極に赤道の方に近きと英計三度半づゝの處に線を朝暮の極線と名



この間ハ摂候寒き由ヲ寒帶と名ク極線と二至線との間ハ四十三度の廣き處ニ此時候程よく春夏秋冬の順序正しく中帶と名ク中帶ハ人々身体達者ニ氣力ハ文明開化の極度ニ至りしものか唯此方角ニ有る諸國の歐羅巴北亜米利加の合衆國支那日本等皆中帶の内ニ有り熱帶の地ハ草木よく生長し獅

子犀象豹虎蝮蛇等多し又或ハ駝鳥かどいへる大ひなる鳥ハ中帶寒帶ニハ絶てなきものなり寒帶の地ニハ禽獸草木少く人の身体小短ニして愚なり獸類ハ白熊馴鹿等なり都て寒地ニ生ずる獸ハ皮厚くして毛深し天然ニ寒氣を防ぐたなり



## 自然の地學

此圖を見るに遠景は大洋にして河口に半嶋と二三の小島あり左手の小高き處には燈明臺あり其の先の方へ突出たるは岬にて左手には市中繁昌して こまべ駛込む蒸氣車あり この模樣を見てあらまし地理の區別を知て地學の大趣意を合点せ

本篇にもいへる如く地球の面三分は海にして一分は陸なり この陸地を三に分ち亞細亞阿非利加歐羅巴を東の半球とし或は舊世界といふ南北亞米利加を西の半球とし或は新世界といふ大洋洲も亦別に一世界なれば合せて三世界あり或ところを三大地と名く西洋の語にこんちねんと」といふ廣く續きし土地といふ義なり嶋とは四方に海にる土地なり譬へは英吉利麻田糟輕久場等の如き皆嶋國なり

半嶋とハ三方水ふして一方のみ大地ふ續きたるをいふ日本かていへバ肥前の嶋原ゟ如きこ

嶋・半島・地峽の圖

あり

地峽とハ大洲と大洲と續く處の又ハ半嶋と大洲と續く処の狹き土地をいふ譬へバ亞細亞洲と阿非利加洲と續く處ゟ末洲の地峽あり南北亞米利加の界

ふ巴奈馬の地峽あり

岬とハ海ふ突出したる陸地をいふ阿非利加の南の端ふ喜望峯あり南亞米利加の端ゟ「ホルン」ふるんあり

土地の高きものを山といふ但し地學ふ於てハ高さ千尺以上ふるものを山と唱へ千尺以下のものを岡といふ山の高さを幾尺と計るハ海面より勘定したるものあり世界中の高山ハ印度の「ひまらや」山を第一とし其高さ三萬尺ふ近し

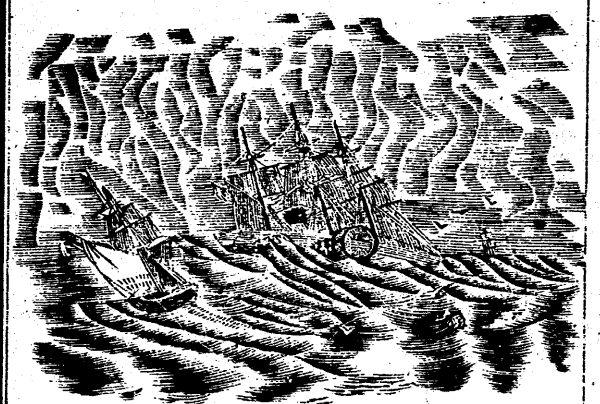
即ち英吉利の里法にて五里余の高さあるさまどもこゝを世界の大ひさに較べ見るに足らず地球の中徑千六百分の一あり譬へバさ一渡一一丈六尺の玉に五分を加への贅あるが如一地球の大ひあること思ひ知るべ

山より火を噴き烟を出すものを火山といふ世界中に其數三百ばかりこの内の二百ハ嶋國の山なり

廣き砂原に雨降らず一て草木生長せざるものを砂漠といふ阿非利加荒火野の砂漠こゝにあり日本にハ砂漠に一

大洋とハ外海のことなり實ハ世界中の海に其水の互に通ぜざる處ゆゑこゝを大洋といふも差支なき筈にこゝを地理の模樣に由て

分て五大洋とゐせて即ち太平洋阿多羅洋印度洋北極洋南極洋こ



大洋

本篇は洋の字を用ひぎ

き洋の字を用ひたるのみ

して海と記したるハ唯人の見あ

大洋の深さを詮索

せしおもどもいま

だ確かるを知らぎ

その底ハ凸凹ある

ハ陸ハ山阪ゐるが如しその最も深き處も陸の

山の最も高きものハ等しかるべしとゐふ

海とハ大洋より狹くして其周圍ハ陸地の近き

そのをいふ地中海黒海の如きこゝ

海

湖水ハ淡水の集てた

るものゆりその源を

河よりて流こゝ或ハ湖

の底より湧るもの

も又河

其出口ハ

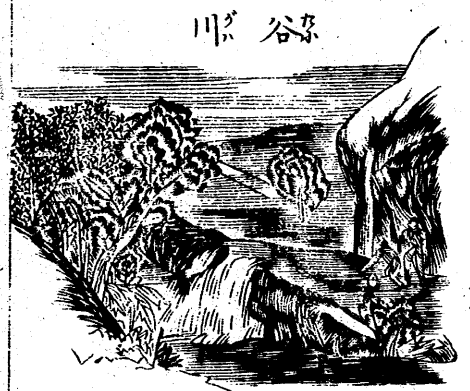
北亞米利加の合衆國と金田との界ハいる湖水

ハて海ハ入る世界第一の湖水ハ北亞米利加洲ハあり入海とハ三方ハ陸あて一方のミ外海ハ續くものをいふ或ハこを灣といふ「めき」「こ」灣又ハ辨輕の入海等これあり其狹くして船の碇泊を得る處を港といふ



瀬戸とハ海と海と續く狹き處をいふ「おぶらるたる」の瀬戸ハ阿多羅海と地中海と續く處ハあて下の關の瀬戸を周防洋と玄界洋との界目ハあり

谷川



陸地の低き處ハ流るゝ水を河といふ河の源ハ或ハ泉よりて出或ハ湖水より出づ雨雪の水山の中ハ溜りて其の穴より流出でゝ谷川

ふいやげーるの瀧

とふを次第ふ集て河とあり又合して大河とかり遂ふ海ふ入るあり南亞米利加の「ぱらぐあい」ハ世界第一の大河ふして北亞米利加の「ミすしぴい」ハ世界第一の長河あり河の流るゝ路ふて低き處へ落るものを瀧といふ合衆國の「ふうよるく」洲ふ「すんやがら」といふ瀧あり高さ百六十尺世界中の名所あり



人間の地學

天然の地理ハ萬代不易ふして開闢の始も今日も大ひふ異ふることふしさをども地球の面ふ生をたる人の才簡を以て其地面を分ち其界を定て各政府を立をバ人民共ふその為筋を思てざるものふしー是即ち人間の地理ふ區別を生ト世界中ふ國々の分るゝ所以ありこの區別ハ固より人の作をしものふをバ萬代不易ふるを得ず爭ふ由て師を起ををのゝ野心を抱て國を

盜むものいり威力を以て土地を押領するものあり是即ち諸國ハ盛衰興敗の変ある所以あり斯く人の意を以て勝手次第ハ定めたる國の界ハ必ず海陸山川の地理を目的とせず或ハ唯双方の人の約束したる條約の書面ハ由ての其界を守ることもあり然れども事實の便利を謀て暴人の襲を防ぐためハ大洋又ハ山川の筋ヨ撓て界を立るを良とす

本編の始ハいへる如く世界中の人種を五ハ分ちその容貌知愚同トからざるバ世の國々の風俗生産の道も亦一様ならず

(イ) 文明開化とハ都會を開き市町を立て住居の處を定め安樂の家ハ居て事々物々ハ順序を違へず心を勞し身を役し禮を重んし義を貴ぶものをいふ

(ロ) 蠻野とハ住居を定めず水草を逐て處を移し或ハ牛羊を飼ひ或ハ鳥獸を捕て渡世するものをいふ

右二様のものを尚又細に區別するに八左の如し

第一を渾沌といふ蠻野の内にても最も下等の民にて鳥獸の仲間を外るること甚遠かむ阿非利加の内地新ぎんかあ「おふすたらりや」などの土人こまるうむてしもおく廣き野原に徘徊して獵漁を業とし或ハ虫を喰ひ或ハ野山に生ずたる木の實草の根を食物とす其人の性質慈悲の心おくして互に相爭ひ物事に迷ひ易く



して人の道を知らず甚だしきハ人の肉を喰ふものあり其住居ハ常に家おしあるいハ粗末なる小屋抵を作りて一村の趣を成すこともあれども便利しだいに次第おて忽ち數ドその痕跡も見ず農業を勤めざるバ五穀を喰ふ衣服も甚だ見苦しくして大抵裸体の者多し其知識ハ固より狹く文字を知らず法律を知らず禮義の道おく地面の區別おし斯る愚民の内にも矢張頭分のものおりて大勢を支配しその取扱ひ甚だ暴虐無

道あり

第二を蠻野といふ渾沌の民よりも一段上席か支那の北方韃靼荒火野又ハ北阿非利加の土民等こもかの此種類の民ハ住居の家なく天幕を張て雨露を凌ぎ或ハ家を作るとても甚だ粗末なり水草の便利のためかハ其天幕又ハ家作を携へて處を移すことなりその食物ハ牛羊の肉を喰ひ其乳汁を飲ミ稍農業の道を心得て五穀を喰ふ者もあり蠻野の國かハ文字のもと

もこもを讀み書きする者ハ甚だ稀なり藝術かハ至りてハ最も拙くして道具仕掛の工夫を知らず此人民を支配するものハ何とぞ強くして家筋の人なり下々の者ハこの人を親分とし君父として恭ひ尊びその法甚だ不人情かして暴し

第三を未開又ハ半開といふ真の文明開化かハ至らずしてあるを開けかるを云ふものかをども蠻野かハ較べバ遙か上等なり農業の道

よく行届て食物多く藝術も進で次第ニ巧ニ趣き都會を開き家居を飾て文字學問の道も隨分盛ニ至て但し嫉妬の心深くして他國の人を忌み嫌ひ婦女子を輕蔑し弱き者を苦しむる風ハ支那土留古遼留社等の諸國ハあるを開けたるものといふべし

第四を文明開化といふ禮義を重んじ正理を貴び人情穩ニして風俗やさしく諸職の術ハ日ニ新ニして學問の道ハ月ニ進み農業を勤め工作を勵み百般の技藝盡さざるものなく國民業を安んじて天の幸を受り求頼なしく自から滿足せり亞米利加合衆國英吉利佛蘭西日耳曼和蘭瑞西等の諸國ハ文明開化の域ニ至るものといふべし

世界中ニ帝國ハ王國ハ公國ハ侯國ハ或ハ共和政治の國ハ帝國とハ帝の支配する國ニして魯西亞墺地利佛蘭西の如きとなり王國とハ王の支配する國ニ英吉利普魯士西班

牙和蘭の如きこもあり公侯の國もこもあ同ド共和政治の國とハ主君なく國中の人ら申合せふて治むる國あり南北亞米利加洲の諸國瑞西理邊利屋の如きこもあり

國中の支配取締の便を謀て其地面を州ふ分ち郡ふ分ち縣ふ分てりその名目ハ國々ふて同ドからさもとも事實ふ於て相異なることなし

人民の多く集て家を建て市町を開きし處を都會といふ亞米利加合衆國ふて大都會と唱ふる處ハ「ふらんくふぉーど」「ふぃらでるふぃや」「ぼすとん」「ぢるちもふる」「にうをるいんを」等ふて都會の場所を撰ぶかハ商賣の便利を謀て產物運送等の模樣ふ由てこれを定るものあり

合衆國の都會「ふらんくふぉーど」をるといんを」の景

首府或ハ唯都と記ハ一國の政府のある場所をいふ「わーしんとん」ハ合衆國の首府なり「ろんどん」ハ

英吉利の首府なり

政府の体裁とハ其國を治むる法の立方をいふ

その種類三つ

第一を「かるき」といふ立君の義なり立君ハ一人の君を立て其國を支配することなり譬ヘハ英吉利佛蘭西魯西亞其外の國々ハ皆立君の國なり立君の政体を又二種に分ち一を定律立君といふ國君一人にて政事を自由にせず國内に議事院を設て評定所を開き國中一同の入札にて人物を選び毎年この評定所に集まりて法律を定め掟を設け一人の君とても國の掟をバ破得ざるようにしたるものなり譬ヘば其國の君不行状にて奢を極め或ハ妄に師を起して國中へ用金をいひ付んとするも議事院の評議にて決して許さず都て君の威權ハ甚だ弱く國を先にして君を後にするの趣意なり英吉利和蘭西班牙等の如きこれなり又一種の「もおるき」を獨裁立君といふ國に君を立てその君一人の勝手

次第ニて政事を掌き國民の生命も君のものニ
ものといひ上たる人の意ニ背けバ罪ニ落る者をも
殺ものとなり國民の家産身代も君のものニ
といひ上たる人の見込次第ニて妄ニ年貢運上
を取立て或ハ罪ニ陥入もて欠所ニ成るなり
何事も一人の了簡ニて天下を私するものあ
り魯西亞土留古支那等の如し其君若し賢明ニ
る人物ニてよく心を用ヒバ國治らざるニ
ざるとも萬一無學文盲ニて自侈ニ増長まる

きハ民の難苦一方ならぬこと暴君といふ
第二の政体を貴族合議といふ家柄の貴き人々
寄集て政事を取扱ふものあり
第三を共和政治或ハ合衆政治といふ國中の人
民申合て政事を掌くものあり共和政治の趣
意ハこの世ニ生たる人を同等同格のものと
定め其論ニ云く凡そ人たるものハ各精心ニ
身体ニ貴き人として此精心を二通具ふるニ
ならぬ手足を八本持ニもならぬ天然ニ

貴賤のいるべきよふあり況して歴代の家柄のものを以實ふしてたまく其人ハ才德ハもバ格別なれども若し然らずして唯其位のみ人の上ハ立ち心ハ賤くして我侭を逞ふするハ下々の者ハたとへ人ハ勝れたる才德ハるも暴人の下ハ恐入て百姓町人ハ汗を流して家業を營み一錢づゝ貯へたる金をもおしうゝ惜ふさらたる如くいつの間ふかハ取上られ上の人の我侭放盪ハ元入なる姿あるバ大ひハ天理ハ戻れ

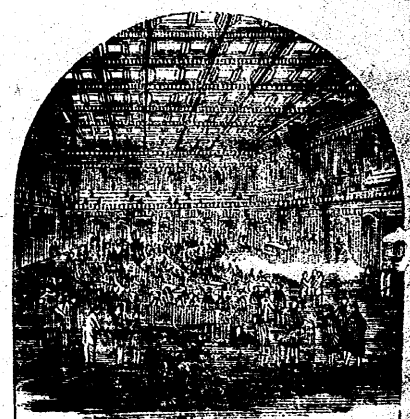
て畢竟世の中ハ政府を立るも國中ハ不平ふる事の行ハるざるよふ人々の生命の危ふらざるよふ其身代を失ざるよふ他國の侮を受けざるよふ其取締をおし其守護を設るためハ役人をもこしらへ武備をも整へ農工商ふその入用を拂ふ訳なるバ管へバ下々の者ハ金を拂ふて物を買ふが如し直段ハ成丈け安くして品柄ハ成丈け上物を選べき筈なるハ其代金をハ渡して品物をバ受ずして請取らぬのみか却

て其金を たゞ奪ひ一切めたりを捕ひ きまゝ おとのごとくにてハ以ての外あり害ひて益なしことあり故ゝ貴賤上下歴代家柄などの話ハ打止め人々其天然の心を勞し其天然の身を働ゝ他人の妨をおさゞして其々ゝ其身を守さ其父母妻子を養ひ其家を治め其國を建て趣意おき命令を下ものをあく趣意おき貢税を取立るをのもおく天下太平國家安全を致ゝ

右の議論ゝ掘ゝバ政府もなくて濟むべきよふ

おもども人の心の同ト からざるハ其面体の各異なるが如し且天下の人萬人ハ万人皆善人ゝもいらざるハ爭論おきこと能ゝ故ゝ國中の人申合セ人札を以て人物を選び政事の頭取を立て評議の役人をいひ付り在役の年限中ハ相當の給金を取らして政を為さしゝ專ら國中一同の便利を謀て外國へ對して侮を受けず國威を海外ゝ輝ゝを趣意と亞米利加合衆國ゝてハ此頭取を「ぷれしでんと」ふ在役

亞米利加合衆國議事院の圖



四年交代一年の給金二萬五千どゥらそに評議の役人ハ上席と下席と兩樣かゝり

上席の者ハ六年交代下席の者ハ二年交代あり

世界國盡附錄終